

次号予告

特集 BOT—巨大プロジェクト実現の組織—

特集にあたって	高森 寛 (青山学院大学)
BOT方式のあらまし	柳井 浩 (慶応義塾大学)
キャッシュ・フローから見たBOT方式のフレームワーク	福川 忠昭 (慶応義塾大学)
プロジェクト・ファイナンスの展開と債務保証モデル	浦谷 規 (法政大学)
アジアの経済発展と社会資本の形成—経営史からみたBOT—	川辺 信雄 (早稲田大学)
箱根用水に見るBOT方式	柳井 浩 (慶応義塾大学)
シドニー・ハーバー・トンネル	栗田 治 (慶応義塾大学)

編集後記

●今月の特集は「季節変動のマネジメント」です。「エアコン」をかけた部屋で「ビール」を飲みながら本誌を読んでいる方も多いのではないでしょうか？世の中の多くの商品が季節変動をうける商品であり、参考になったと思います。受注生産の代表品といわれる鉄鋼製品でも実は見込み生産を行っている品種もかなりあり需要を読むのが大変です。

●さて、今年も半分以上が過ぎましたが、まだまだ暑い日が続いています。辞書を引いてみると、「暑さ」を表す言葉として、猛暑、極暑、酷暑、大暑、激暑、盛暑、厳暑、炎暑、薄暑、甚暑、蒸暑、溽暑などたくさん言葉がありました。微妙な違いを表す日本語の表現力に驚きました。季節の移ろいを表現する言葉として中国伝来の二十四節気などがありますが、これも四季の変化に富んだ日本だからこそ生きてきたの

でしょう。

●私事で恐縮ですが、数年前に都市部から郊外へ移り住みました。ここでは都会と違い、四季の変化を気候の変化だけではなく、風や草花など自然のにおい、鳥の鳴き声などで感じるが多くなりました（通勤は大変ですが）。今、ストレスや疲れをとるためにアロマテラピー（芳香療法）がブームなのも分かる気がします。

●季節の変化が大きくはっきりしている日本では、昔から自然の変化、特に四季の変化をうまく取り入れた生活習慣や文化を形成してきました。しかし最近、環境破壊や地球温暖化が深刻な問題となっています。人工的で便利な生活を追い求めるあまり、何かを忘れてしまったのが現代社会ではないでしょうか？

(外嶋成留)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 大山達雄(政策研究大学院大学) 副委員長 田口 東(中央大学)

委員 葛山康典(早稲田大学)、栗田治(慶応義塾大学)、笹山晋一(東京ガス㈱)、猿渡康文(筑波大学)、椎名孝之(財団法人電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、清水康司(青山学院大学)、外嶋成留(住友金属工業㈱)、田中宏和(神奈川工科大学)、田村明久(電気通信大学)、原 裕淳(㈱東芝)、宮崎知明(富士通㈱)、山下英明(東北大学)、吉野秀明(日本電信電話㈱)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成10年8月号 第43巻 第8号 通巻452号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 大山 達雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ